

令和7年3月13日（木曜日）

予算決算委員会建設分科会

第5委員会室

出席委員

井上太良、重田一政、川島淳良、宮下和也、
竹尾浩司、神頭敬介、松岡廣幸、小田響子、
岡部敦吏

【建設委員会（都市局）の審査】

開会

10時49分

都市局

10時49分

送付議案説明

- ・議案第1号 令和7年度姫路市一般会計予算
- ・議案第12号 令和6年度姫路市一般会計補正予算
(第9回)

質疑

11時08分

(質問)

エネルギー価格高騰に対応するため、地域公共交通事業者である乗合バス事業者や定期航路事業者、鉄道事業者、タクシー事業者に対し、合計で約2億2,000万円を助成するということだが、それぞれの助成金額の内訳はどのようなになっているのか。

(答弁)

乗合バス事業者に対して6,400万円を、定期航路事業者4社に対して6,700万を、鉄道事業者1社に対して700万を、タクシー事業者56社に対して7,900万円を助成する予定である。

(質問)

助成金額の算出根拠は何なのか。

(答弁)

燃料価格の高騰分に各事業者の燃料の使用量を乗じて算出している。

なお、燃料単価の高騰分は令和2年度と令和6年度との差額とし、燃料の使用量は令和4年度及び令和5年度に助成したものを参考に、事業者の所有している車両等の台数等により算出している。

(質問)

実際に使用した燃料分に対して助成するということなのか。

(答弁)

そうである。

(質問)

基金繰入金について、1億1,200万円を播磨臨海地域道路等整備基金から繰り入れようとしているが、どのような用途に使用しようと考えているのか。

(答弁)

当該道路整備の関連事業として実施する当該道路へのアクセス道路の調査費に充てようとするもので、具体的には、新たに設置予定の広畑インターチェンジから国道250号までの間の市道の調査費を想定している。

当該道路の建設に関しては国等が実施するものだが、当該道路整備の早期着手に向けて、関連事業が柔軟に連携・調整できるように調査を実施するものである。

(質問)

当該道路の計画に係る進捗状況はどのようなになっているのか。また、令和6年度において、総合交通計画推進経費のうち当該道路に関する予算はどのように執行されているのか。

(答弁)

令和5年12月をはじめ、令和6年7月、8月と関係市町において住民説明会を実施した。

今後、住民の意見を陳述してもらう公聴会を県が開催する予定である。

その後、公聴会で出た意見やそれに対する考え方をまとめ、都市計画の案を県が作成し、都市計画案の縦覧期間中に環境影響評価準備書に関する説明会を県が開催する予定である。

しかしながら、公聴会の開催時期については、本市以外の地域で個別に説明会を継続して行っていることから、まだ決まっていない状況である。

そのほか、令和6年度の本市の取組については、当該道路は臨海部の緩衝緑地を通過することが想定されており、ルート上にある公共施設等に支障を来す箇所があると考えられることから、施設の再配置やまちづくり資するための検討資料の作成などを行った。

(質問)

当該道路に関する反対意見も耳にしていることから、当該道路の整備を強引に進めるのではなく、市民のいろいろな意見にしっかりと耳を傾けて、計画を考

えてもらいたいどうか。

(答弁)

我々も市民から様々な声を聞いている。

反対している人に納得してもらうことはなかなか困難ではあるが、今後人口減少社会を迎えるに当たり、当該道路の整備がよりよいまちづくりにつながることを、市民に寄り添いながら丁寧に説明をしていきたいと考えている。

(質問)

公共交通空白・不便地域の選定はどれぐらいの頻度で見直しているのか。

(答弁)

令和3年度に姫路市総合交通計画を策定し、同地域を選定した。同計画の計画期間は2030年度までとなっているが、その間、仮に路線バスが休止するような事態が生じた場合は、地域住民から要望のある地域を優先し、公共交通の手段を確保するための様々な取組を進めていきたいと考えている。

(質問)

人口減少等により同地域が拡大していくように思うことから、同地域の選定について十分考慮した上で計画を改定されたいどうか。

(答弁)

同地域は大まかな場所を示しているが、実際にはそれ以外でも部分的な空白地域もあるため、同計画の改定に向けて丁寧に考えていきたい。

(質問)

同地域の拡大に併せて、地域公共交通運営経費が令和5年度と比較して増加しているというようなことはあるのか。

(答弁)

同地域の拡大に伴ってではなく、同地域が縮小するよう段階的に計画を立てていく中で、地域公共交通に関する事業費が増となっているものである。臨時的に対策が必要な地域が生じた場合は、検討の上、考慮していきたい。

(質問)

ひめじ住まいの耐震化促進事業費の中で、令和7年度は、高齢者世帯を対象として、シェルター型耐震改修工事費補助金の上限を50万円から100万円に引き上げるとのことだが、シェルターとは具体的にどのよう

なものなのか。

(答弁)

能登半島地震のときに、高齢者にとって、今後何年住むのか分からないのに多額の費用をかけてまで自宅を耐震化できないという声を聞いた。

そのため、自宅を建て替えるのではなく、自宅の中に耐震シェルターを設置することで、地震があったときにその中に逃げ込めば、2階の屋根が落ちてでも身を守ることができるというものである。

(要望)

シェルター型耐震改修工事に当たり、まずは市民に耐震診断を受けてもらい、安全性の低い住宅に住み続けることの危険性をよく知ってもらうことが何よりも重要だと思うことから、周知に努めた上で、同工事に関する補助事業をしっかりと推進されたい。

(質問)

住宅耐震化工事等に関する補助は、どの程度の申請件数を見込んでいるのか。

(答弁)

簡易耐震診断推進事業の対象戸数としては150戸、具体的な耐震改修計画策定費補助金については10戸、住宅耐震改修工事費補助金については5戸、住宅耐震改修計画策定と耐震改修工事費を同時に実施する場合の補助金については5戸を見込んでいる。

また、本格的な耐震改修ではなく小規模型耐震改修工事費補助金については2戸、屋根軽量化工事費補助金については1戸、防災ベッド等設置費補助金については1台、住宅建替工事費補助金については7戸をそれぞれ見込んでいる。

(質問)

危険ブロック塀等撤去支援事業費として850万円が予算計上されているが、どれぐらい申請があると想定しているのか。

(答弁)

申請件数は個人住宅が30件、幼稚園や保育所、認定こども園が1件、社会福祉施設等が1件と見込んでいる。

(質問)

同事業費の補助対象となる区域を拡大することは考えていないのか。

(答弁)

補助対象となる区域については、学校指定通学路に

加え、令和5年度から、小学校等から半径500メートル以内の道路も対象としたところであり、さらなる区域の拡大については申請状況を踏まえて検討していきたい。

(要望)

校区の中で主な通学路に面した危険なブロック塀はおおむね撤去等を行っているとは思うものの、新興住宅地でないところでは、学校から500メートル以上離れているような場所にも古くて高さのある危険なブロック塀がある。

子どもたちが集まってくるエリアとして、現在の対象範囲も妥当だと思う。しかしながら、最終的には各家庭に帰るまでの道路が個々の児童の通学路であり、安全・安心な通学路を確保するため、児童が登下校時に利用する道路に面した危険なブロック塀等は速やかに改善する必要があると思われることから、対象範囲に係る要件を緩和するよう検討されたい。

(質問)

鉄道駅ホームにおける転落防止用のホーム柵の設置に関して、J R 西日本及び山陽電鉄からは乗降客の多いところから設置していくような話があったと思うが、今後のホーム柵の設置について、鉄道事業者とどのように話を進めているのか。

(答弁)

J R 西日本及び山陽電鉄ともに、ホーム柵の設置についてはバリアフリー対策も含め協議を行っているところである。

J R 西日本に対しては、山陽本線の沿線市町等と共同でホーム柵の設置を要望している。

しかしながら、駅数も多く、工事費もかなりかかることもあり、いまだ設置には至っていない。

J R 西日本は令和5年4月1日から鉄道駅バリアフリー料金制度を導入し、鉄道運賃に一律10円加算して、駅にホームドアを設置するなどバリアフリー化を推進する取組を行っているが、令和7年4月1日から対象エリアを拡大して姫路駅も対象になると聞いている。

新幹線の姫路駅については、令和6年度にホーム柵の設置に向けた設計作業に着手しており、引き続き工事を進めると聞いている。在来線については同工事完了以降になるものと思われるが、具体的な改修時期は示されていない。

J R 西日本は乗降客10万人以上の駅を優先してホーム柵を整備しており、周辺地域では明石駅、西明石駅には一部設置しているが、姫路駅や加古川駅はまだであり、今後設置してもらえるよう、引き続き要望していきたい。

(要望)

ホーム柵を早期に設置してもらえるよう、しっかり要望されたい。

(質問)

播磨臨海地域道路等整備基金繰入金利子収入として3,225万5,000円が予算計上されているが、どのような用途に使用されるのか。

(答弁)

同基金積立金として、同基金にそのまま積み立てるものである。

(質問)

同基金繰入金はどのような用途に使用されるのか。

(答弁)

市道広畑60号線の調査に充てる予定である。当該調査は街路建設課の所管であり、建設局で歳出予算として計上している。

(質問)

同基金繰入金は、歳入予算としては都市局が計上しているが、これを基にしたの歳出予算の執行は建設局ということなのか。

(答弁)

そうである。

(質問)

播磨臨海地域道路の建設に反対している人に対して丁寧な説明をするための様々なツールの作成費用として、同基金の利子収入や繰入金を充てるべきではないかと思うがどうか。

(答弁)

令和7年度は、総合交通計画推進経費を用いて、ルート案において同道路が横切ることになる地域の住居等の現況を把握したり、どのようなまちの課題があるか等について検討していきたいと考えている。

(質問)

播磨臨海地域道路等整備基金積立金等を使用して、反対している人に対して、同道路建設の趣旨をより分かりやすく説明できないのか。

(答弁)

同基金は基本的にアクセス道路建設のために積み立てているが、有効に活用することは重要であると考えており、地域の実情などをより細かく確認した上で、効果的に使っていきたい。

(質問)

播磨臨海地域道路が建設されることで、国道2号や姫路バイパスの交通がスムーズとなり流通が改善し、その結果、市全体の経済がよくなることから、同道路の建設は大いに賛成である。

しかしながら、立ち退き対象となったり、自宅周辺における渋滞や騒音に不安を感じて反対する人もいる。同道路を建設することでまちが発展し、よりよい住環境になるということを分かりやすく説明できる資料を、繰入金を使用して作成するなど、地域住民の理解と協力を得るためにどのように対応しようと考えているのか。

(答弁)

同道路の整備後についてより一層具体的なイメージを持ってもらえるよう、きめ細やかな説明を行うなど、市民に寄り添っていきたいと考えている。

(質問)

地方バス路線維持経費として3億9,140万円が計上されているが、地方バス路線の運行費等を支援することについてどのように考えているのか。

(答弁)

同経費は神姫バスに対し補助金を支出しているもので、令和4年度は約4億5,000万円、令和5年度は約4億3,000万円、令和6年度は約3億9,000万円と、徐々に支出額を減額している。

令和4年度の前後はコロナ禍の影響でバス利用者が減少していたため、市が補助金を多く支出していたものの、コロナ禍による利用者数の減少も収束を迎えており、今後支出する補助金の額は令和6年度と同程度の水準で推移するものと予想している。

路線を維持できる利用者数や便数等を精査しつつ、バス停の上屋やベンチを設置し、バス車両の更新を行うなど、利用環境の改善によりバスの利用者数を増加させることで、できる限り補助金の縮減に努めていきたいと考えている。

(要望)

地域住民の生活を支えるバス路線を維持していくためには民間の企業努力も必要になってくると思う。市民の足として利用しやすいバスとなるよう、民間事業者としっかり連携されたい。

(質問)

J R網干駅前土地区画整理事業費として2億9,760万円の予算が計上されているが、事業の進捗状況はどのようなになっているのか。

(答弁)

区域の北側から整備を進めており、駅前広場の整備が最後になっているため、駅を降りて外に出たときに整備が進んでいない印象を受けるが、現在のところ事業費ベースで84%とかなり進んでいる。

網干駅の特徴の1つに、神戸方面に向かう人が利用するための駐輪場や駐車場が駅前に多いことが挙げられる。

駐輪場等を一旦全て営業休止し、取り壊して区画整理すると早く整備を完了できるものの、利用者の利便性や事業者のことを考え、営業を継続させながら整備を進めている。

具体的には、まず駐輪場等を別の場所に建設し、仮移転した上で周辺の整備を行い、整備完了後に駐輪場を建て替えて、仮移転していた駐輪場等を撤去することとしており、整備完了までに時間がかかっている。

事業は令和12年度までとなっており、整備完了に向けて、令和6年度から駅前の整備をはじめ駐輪場の移設等を開始しており、令和7年度からは整備の進捗状況が確認できるようになってくると思う。

(要望)

今後、本格的に駅前広場の整備に取り組むに当たり、車の動線や送迎スペースについて十分考慮した上で整備を進めてもらいたい。

役職定年者挨拶

都市局終了

11時55分

【建設委員会（建設局）の審査】

建設局

13時45分

付託議案説明

- ・議案第1号 令和7年度姫路市一般会計予算
- ・議案第12号 令和6年度姫路市一般会計補正予算

(第9回)

質疑

14時10分

(質問)

令和7年度新規事業の概要に関する資料において、手柄山平和公園駐車場精算機の更新に併せて、駐車料金を定額制から時間制に変更するとあるが、どのように変わるのか。

(答弁)

現在の1日1回200円という料金体系では、新駅が完成したときには、1日中、同駐車場に駐車したまま放置される車が多くなる状況が考えられるため、時間制にしたほうがよいのではないかという議論を行っている。

今後、ひめじスーパーアリーナをはじめ手柄山平和公園の整備の進捗を踏まえ、観光経済局とも協議しつつ、料金変更の検討を進めていきたい。

(質問)

駐車料金を値上げするならば、今まで適用されていなかった障害者割引を導入する予定はあるのか。

(答弁)

障害者割引の導入も含め、料金体系を検討していきたいと考えている。

(質問)

無人の駐車場でも障害者割引が受けられるような新しいサービスも出てきていることから、導入に向けて検討されたいがどうか。

(答弁)

どのような駐車場精算機を導入するかは検討中であるが、センサー型をはじめ、同サービスに対応したカメラ撮影ができるなど様々な機能を持つものがあり、価格も考慮した上で検討していきたい。

(質問)

街路灯LED化推進事業費に約8,000万円の予算が計上されているが、道路照明灯のLED化に要する経費ということでよいのか。

(答弁)

そうである。

(質問)

同事業の進捗状況はどのようになっているのか。

(答弁)

市内には約7,800基の街路灯があり、令和6年度に

ランプ部分は100%LEDに切り変わっている。

10年ほど前から街路灯のLED化を推進しているが、従来は灯具部が高価であったため、水銀ランプからLEDランプへの交換だけ行い、灯具部は交換していなかった。しかしながら、ランプだけ交換した場合、ランプの寿命は灯具部全体を交換するより短くなってしまうため、今後は灯具部も含めて交換しようと考えている。

(質問)

計上されている予算では、どのぐらいの灯具部を交換することが可能なのか。

(答弁)

街路灯1基当たり20～30万円かかると想定しているものの、具体的な数は分からない。

(質問)

公園樹木活力再生事業費として4,850万円が計上されているが、同事業はどのようなものなのか。

(答弁)

主に手柄山平和公園や運河公園に生えている樹木のうち、倒木の可能性のある樹木を伐採するほか、剪定するなどの作業を行っている。

樹木が過密状態となり、根が張るところも少なくなるため、間引いていこうと考えている。

(質問)

姫路まちごと緑花大作戦事業費として9,316万2,000円が計上されているが、同事業はどのようなものなのか。

(答弁)

同事業のうち大部分を姫路市まちづくり推進機構に委託しており、記念樹の配布をはじめ、ひめじ緑いちやひめじ花と緑のガーデンフェアなどの緑化推進事業を行っている。

(質問)

例年の同事業の予算は8,000万円台であったと思うが、令和7年度の予算額が増となっているのはなぜか。

(答弁)

主に人件費や物価の上昇に伴う増である。

(質問)

同事業は変わった名前をしているようだが、由来は何なのか。

(答弁)

分からない。

(質問)

同事業費のうち大部分は姫路市まちづくり推進機構への業務委託料が占めていると理解してよいのか。

(答弁)

同事業費の約9,316万円のうち約7,700万円が同機構への業務委託であり、花と緑のまちづくりの啓発事業のほか、地域住民に樹木や草花、資材等を配布する地域緑化事業、希望する学校へ花の苗や土などを配布するなど子どもを対象とした環境教育に資する子ども向け緑化啓発事業を実施している。

(要望)

緑化事業を推進することで街並みの美観を保ったり、子どもたちの環境教育・環境学習を充実させることも重要であるものの、一方で、市の予算が限られている中、生活環境を守るために地域住民が汗水垂らしながら雑草の草刈りを行っている状況がある。

まちの美しい景観を守るため、雑草の繁茂を抑えながら緑化も進めるというバランスの取れた予算編成をしっかりと考えられたい。

(質問)

播磨臨海道路整備の関連事業として、新たに設置予定の広畑インターチェンジから国道250号までの間のアクセス道路の調査を実施するとのことだが、具体的にはどの辺りの場所なのか。

(答弁)

アクセス道路は市道広畑65号線で、国道250号沿いにあるマルナカ広畑店の約200メートル東にある吾妻二丁目交差点から南に下った約240メートルの区間となる。西門通りの筋となり、都市計画道路名では西門線である。

(質問)

同事業費はどの予算に計上されているのか。

(答弁)

第45款土木費、第30項都市計画費、第30目街路事業費において、本年度予算額の財源内訳として特定財源のうちのその他という項目に、繰入金として1億1,200万円を計上している。

(質問)

浜手緑地樹木密度管理事業費について、浜手緑地は

木が生い茂っており危ないと聞いているが、なぜ令和5年度と同様の約6,100万円しか予算計上していないのか。

(答弁)

浜手緑地は樹木が鬱蒼と茂っており、毎年間引いている。事業費としてはもっと要求していきたいものの、財政的にも厳しいことから、例年並みの予算となっている。

(質問)

国庫支出金について、道路関係と公園関係の一般会計予算では令和6年度予算額より増となっているものの、河川関係では大きく減となっている理由は何なのか。

(答弁)

一般会計補正予算(第9回)で計上している約1億2,000万円が国の補正に伴う措置となっている。

本来なら令和7年度に受けるべき国庫補助金を先に令和6年度に受けたという、前倒しに近い意味合いとなっており、このため令和7年度の予算が減額となっている。

補正予算と合わせて、現年度の補助事業の執行が可能となる。

(質問)

令和6年度には補正予算として、補助金を増額で受け取っているため、令和7年度はその分補助金が減額になっているという理解でよいのか。

(答弁)

そうである。

減額になった理由としては、国から令和6年度に補正の内示があったからである。令和6年度に、先に補正予算として令和7年度分の補助金をもらい、令和7年度に繰り越して執行するという形になる。

令和6年度に受け取った補助金で、令和7年度も計画した事業が予算化できる予定である。

(質問)

地域から要望があり、国に予算要求したものの、補助金が得られなかった事業は、予算書に掲載していないのか。

(答弁)

事業としては予算書に掲載しているが、国に要求している補助金が実際に幾ら交付されるかは内示によ

る。

散会

14時34分

(質問)

内示が出ておらず補助金の金額が不明な中、予算書にはどのように事業費の内訳を記載しているのか。

(答弁)

交付予定の金額を見込んで、予算書に計上している。

(質問)

実際に交付される補助金の額にかかわらず、見込額を予算計上しているということか。

(答弁)

そうである。

(質問)

街路事業費に、市単独事業として網干線（JRはりま勝原駅）に関する事業の予算が計上されているが、どのようなものなのか。

(答弁)

JRはりま勝原駅の北側に位置し、東西に伸びる道路が網干線で、既に供用を開始しており、事業本体自体も完了している。

しかしながら、今後、道路の管理部署に事業を引き継ぐに当たり、安全対策も含めた維持管理に関する工事が必要であることから、その事業費を予算計上しているものである。

(質問)

網干線でまだ何らかの大規模な工事を実施するということはないのか。

(答弁)

歩道を含め本線自体の工事は既に完了しているが、接続する排水路の取り合いの箇所を調整するほか、安全対策として反射板を追加で設置するような小規模な工事を実施しようと考えている。

(質問)

幹線道路新設改良事業費において、網干1号線・17号線に関する事業の予算が計上されている。今回新たに網干1号線の事業が追加されているが、網干1号線についても予算を確保し、事業を進めていくと考えてよいのか。

(答弁)

網干1号線についても地権者の同意等が得られる見込みであり、当該事業費の予算計上を行っている。

建設局終了

14時34分